

物、断る勇気持って」



津中央LC 小学校で乱用防止教室

津中央ライオンズクラブ(＝津中央LC、若林浩隆会長)はこのほど、津市立荻濃小学校で6年生50人弱を対象に薬物乱用防止教室を開催した。今年2校目となる。会員の水谷千春氏が講師を務め、DVD映像を使って、薬物の怖さを生徒らに伝えた。

(津)

薬物乱用とは、社会のルールから外れた方法や目的で、薬物を使うこと。麻酔など医療目的で使用する場合も合法であるが、反社会的な目的で使うケースは、たとえ1回の使用でも犯罪となる。

多くの大人が「薬物乱用は違法」と認識していても、最近では芸能人による薬物乱用が大々的に報道され、未成年による薬物乱用も一向に減りつつある。

映像使い恐さ伝える



講師の水谷氏が補足説明をする

津市の6小学校で同教室を開催する計画を立てている。このほかにも、「母親が使用している薬物」や「シンナーの臭いに似ていると聞くと薬物乱用の恐れがある」という質問に対するなど、生徒の危険に気付いて止めようと思っても、依存症に陥るなど、水谷氏は最後に「悪い仲間を断ることも学んだ。」

生徒達は「覚せい剤による幻覚症状」、「シンナーの臭いに似ていると聞くと薬物乱用の恐れがある」という質問に対するなど、生徒の危険に気付いて止めようと思っても、依存症に陥るなど、水谷氏は最後に「悪い仲間を断ることも学んだ。」



女川町で炊き出しを行った

活動は、震災発生当初から個人で復興支援活動を行っている社会奉仕委員長の石川博氏を中心に計画した。安城RCが被災地を訪問して復興支援活動を行うのは2回目、今回は創立55周年記念事業として実施しを行った。

心も温まるうどん好評

名古屋RCの救援物資届ける

活動では被災地を訪問するメンバーが活動日の前日午後9時に自動車で行き、地元住民を対象にうどんを提供した。安城市を出発し、翌日午前7時に現地に到着。炊き出し前に宮城県石巻市役所と女川町役場を訪れ、救援物資の寄付など、炊き出しでも人気を集めた。

名古屋RCの救援物資届ける。その後女川町の新田地区や清水地区で炊き出しを行った。被災地を訪問したメンバーは、国際ロータリー2760地区の「東日本大震災プロジェクト委員会」を通じて寄付を受けた。石川氏は「名古屋RCの練習会を行い、うどんを作りながら作業内容を確認していた。このため、感謝している」と話した。

安城RCが復興支援活動

被災者の励みに 女川町で炊き出し

安城ロータリークラブ(大見会長)は、東日本大震災の被災地復興支援活動として、宮城県女川町で炊き出しを行った。大見会長ら会員17人が現地を訪れ、町内2カ所で800食のうどんを無償提供した。また名古屋栄ロータリークラブから50万円の寄付を受けて、被災地への救援物資の購入に充てた。

(安城)



現地を訪問した会員ら(前列左から4番目が大見会長)



安城市内で行った炊き出しの練習

大見会長は「1年ぶりに被災地を訪れたが、復興は依然進んでいない印象を受けた。仮設住宅での生活で寂しい思いをされている方も多く、今回の活動がわずかでもそれらの方の励みになれたと感じた。来年以降も活動を継続できれば」と語っていた。